

BrainHumanityの活動と組織

～阪神・淡路大震災を契機とした学生主体の取り組み～

特定非営利活動法人ブレンヒューマニティー

理事長 能島 裕介



- 1994年、**関西学院大学の学生によって設立**
当初は学生による**家庭教師の紹介、斡旋を行うサークル**
- 1995年、**阪神・淡路大震災発生**
メンバーらも被災
その後、被災した子ども達を対象にした**学習支援活動**を展開
学習だけでなく遊びも支援しようと**キャンプ等の野外活動**も開始
- 200人以上の学生ボランティアが集まる



- 阪神・淡路大震災以降、
 - 学習支援活動
 - レクリエーション活動を2本の柱として、学生サークルとして活動を展開
- 1999年、事務局を開設
職員の雇用を開始
- 同年から、不登校の子どもの学習支援活動を開始
- その後、様々な青少年を対象にした活動を展開



- 2000年に兵庫県知事の認証を得て、特定非営利活動法人の法人格を取得
 - ・ 学生主体の活動としては**全国初のNPO法人**となる
- 現在でもなお、**学生を主体とした経営**を続ける
 - ・ 950人を超える学生ボランティア
 - ・ 理事の過半数は学生
 - ・ 学生が職員を採用、雇用
- 「子ども達に多様な価値を提供し子ども達が多様な選択肢を持つ社会をつくる」がミッション



➤ 主な活動は下記の通り

- 被災児童支援事業
- レクリエーション事業
- 不登校児童等支援事業
- 国際関連事業
- 家庭教師事業
- 補習事業
- 青少年の居場所づくり事業
- 各種受託事業

➤ 年間事業総数 100以上

年間予算総額 108百万円(2013年度決算)



▶ 被災児童等支援事業

阪神・淡路大震災やその後に発生した新潟県中越地震、中越沖地震、東日本大震災で被災した子ども達などの支援活動を実施

トピックス

がんばれ!
はんしん あわじ
阪神・淡路の子どもたち

関学学習指導会ちびっこ支援センター



阪神・淡路大震災から4年がたちました。震災で親を亡くした子どもは573人、両親を一度に失った子どもは110人もいます。震災のあと、子どもたちは、地震の光景がよみがえったり、地震があった1月17日が近づくとなんか痛くなるなどの後遺症になやまされていました。しかし、多くの人々の励ましや支援を受けて明るさをとりもどし、元気に生活しています。

関学学習指導会ちびっこ支援センターは、被災にあった子どもたちの支援を続ける大学生中心のグループです。子どもたちに勉強を教えたり、月に1度のデイキャンプや年に2〜3回の合宿をして、交流を深めています。震災時に小学校6年生だった子どもも今は高校生になり、小さい子のお姉さん役として活動しています。

「おちこち」は神戸市内の仮設住宅を訪れ、宿舎の備えとに支援を行いました。

「ちびっこ」はスキー大会。

大雪の中で「ちびっこ」スキー大会。前野君がスキー大会で。



▶レクリエーション事業

主に小学生・中学生を対象としてキャンプやハイキングなどの野外活動プログラムを提供



▶ 不登校児童等支援事業

不登校の小学生・中学生・高校生を対象に下記のプログラムを提供

○学習支援 ○遊び支援 ○野外活動プログラム



▶ 国際関連事業

主に中学生・高校生を対象とした海外でのワークキャンプ
プログラムを提供

・ フィリピン ・ マレーシア ・ インド ・ タイ など



▶ 学習支援事業

小学生から高校生を対象に大学生らが訪問型（家庭教師）、
通所型（補習教室）で学習支援を実施
主に学校での学習のサポートを実施



■ 各種行政機関等からの委託事業

➤ 生活保護世帯向け学習支援事業

兵庫県（福崎町・播磨町・猪名川町・多可町・新温泉町）・神戸市（灘区・須磨区）・西宮市

➤ 不登校の子ども達の居場所づくり事業

大阪市（港区・東住吉区・旭区・淀川区）

➤ 児童等に対する学習支援事業

大阪市（都島区）・奈良市

➤ 青少年の居場所づくり事業

神戸市（長田区・垂水区）



第3次中長期ビジョンに基づく新規事業展開

▶ 子どもの居場所としての駄菓子屋運営

兵庫県西宮市で大学生ボランティアらが駄菓子屋を運営

▶ 障害のある子どもへの支援

大阪のNPO法人と共同出資し、株式会社を設立し、障害のある子どもへのガイドヘルパー派遣等を実施

▶ 生活困窮家庭等への学校外教育バウチャー提供事業

公益社団法人を設立し、生活保護世帯の子ども達や東日本大震災で被害を受けた子どもに対して学校外教育バウチャーを提供

➤ 株式会社YEVIS

障害児を対象としたガイドヘルパーの派遣、
放課後等デイサービス事業を展開（年間予
算 約50百万円）



➤ 公益社団法人Chance for Children

生活保護世帯や被災世帯への学校外教育バ
ウチャーの提供
（年間予算 約127百万円）



➤ 関西教育旅行株式会社

第2種旅行業としてキャンプ等の野外教育プ
ログラムの旅行企画・実施を担当



- ▶ **学生のボランティア活動は普通のこと**
震災前は特別な学生が行うこととされていたボランティア活動も日常的な活動の一つになっている
- ▶ **災害に対する共感度は極めて高い**
2011年3月12日に神戸市内で実施した街頭募金は一日で200万円以上に
3月だけで700万円以上の募金が集まる
- ▶ **一方で20年経過したことによる課題も**
組織の高齢化・中間支援組織の経営の困難さ・いまだに補助金に依存するNPO・革新的な団体の不足 など

自己紹介 能島 裕介 (のじま・ゆうすけ)

特定非営利活動法人ブレインヒューマニティー理事長
特定非営利活動法人にしのみやNPO協会専務理事(西宮市市民交流センター指定管理者)
西宮市市民交流センターセンター長
尼崎市参与 兵庫県立大学客員教授

1975年、兵庫県神戸市生まれ。1994年、関西学院大学法学部入学。友人らとともに学生による家庭教師サークルとして「関学学習指導会」を設立。1995年、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちを支援するため、関学学習指導会内に「ちびっこ支援センター」を設置。被災児童等への学習支援活動やキャンプ等のレクリエーション活動を展開する。1996年、同会理事長に就任。

1998年、同大学を卒業し、株式会社住友銀行(現・株式会社三井住友銀行)入行。同行天満橋支店融資外国課配属。1999年、同行を退職。関学学習指導会を改組し、BrainHumanityを設立。2000年、兵庫県知事より特定非営利活動法人の認証を受け、特定非営利活動法人ブレインヒューマニティーを設立。同会理事長に就任。同会理事長のほか、尼崎市参与、西宮市市民交流センターセンター長、兵庫県立大学客員教授、関西学院大学非常勤講師(公共政策・社会起業・コミュニティビジネス)、兵庫県青少年愛護審議会委員、ひょうご安全の日県民推進会議企画委員会委員、特定非営利活動法人にしのみやNPO協会専務理事、特定非営利活動法人edge常務理事、特定非営利活動法人CAPセンターJAPAN監事、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン理事なども務める。

同時に全国の行政機関、大学、各種団体等でNPOマネジメントやボランティア等に関する講演、講義を行っている。主な関心領域としては、NPOの組織運営、資金調達、事業戦略、広報戦略、ボランティアマネジメント、行政との協働、社会起業など。

E-mail nojima@brainhumanity.or.jp Twitter @nojimay Facebook 能島裕介(Nojima Yusuke)